

平成22年度 第1回北信越ブロッククラブミーティング2010 開催報告

平成22年6月24日(日)福井県(福井市地域交流プラザ)にて、第1回北信越ブロッククラブミーティング2010が開催されました。参加者は、北信越ブロック5県と滋賀県、鹿児島県のクラブより創設支援1年目(16クラブ)、2年目(13クラブ)の29クラブより47名、関係者を含め計、75名の出席で行われました。



■事例発表 「小さくても元気クラブはここにある！」

クラブ育成を進めていく上で様々な課題があるなか、活動規模が小さい、活動エリアが狭いといった小さなクラブでも元気に活動をしているという2つのクラブより事例発表をしてもらいました。発表クラブの下澤 弘嘉 氏(長野県・白馬総合型地域スポーツクラブ 会長/クラブマネジャー)は、雪の降る地域特性を活かした教室をイベントに展開して参加する側の立場に立ち魅力ある事業を進めていると紹介されました。逆に海のない地域だからこそ海の幸を満喫するイベントも展開しているとありました。



少ない運営スタッフでクラブを支えているため、「できることからやる」こと、「賛同してくれる仲間を増やす」、「(会員から)やりたいことを聞きだす」楽しさ喜びを生み出していくことが元気なクラブにつながっていると思いを伝えられました。

2つ目の発表は、小杉 喜一 氏(新潟県・こいこいスポーツクラブおぢや クラブマネジャー)の予定でしたが、急遽、代役で新潟県クラブ育成アドバイザー宮田氏が、クラブの活動経緯、状況について話をしました。クラブでは、地域住民のニーズ調査活動を実施しており、関わってもらえる雰囲気づくりや連携のとれる団体とうまく関係を築き上げていくこと、ができています。

2つのクラブに共通していたのは、イベント終了後のアンケートや住民への調査を実施、地域により近い関係をつくり運営をしていることがありました。小さいからこそ地域と一緒にという思いが大事なこともなかもしれません。

■事例報告「失敗から学ぶクラブ運営 ～先輩クラブが教えてくれる～」

続いて、クラブ運営の失敗事例を集めた報告を西村貴之 氏(石川県クラブ育成アドバイザー)、亀倉桃野 氏(新潟県クラブ育成アドバイザー)がクラブ巡回や、運営委員会に出席して聞いたことや見てきたことをまとめて紹介されました。関心しながら聞き入り、経験ある報告には、笑い声もあがる雰囲気でした。

キーワードに上がったのは、広報手段、イベント・教室の日程(他団体行事の重なり)、会場の下見といった事例が紹介されました。中には、参加者がゼロという経験をしたクラブもあり、失敗をしたからこそ次なる方法が学べ、新たなアイデアも生まれているとありました。



■グループディスカッション 「〇〇はどうするの？～私たちの解決法～」

参加クラブが今、悩んでいることに関連した項目について他クラブの方と意見・情報交換をしていただき、下記の項目より聞きたい題目を3つ選んで進めていきました。各グループには、アドバイザー、地方企画班が入り、項目に対しての事例やアドバイスを交えながら活発な意見交換を展開していました。

- | | | | | |
|-----------|----------|----------|--------|--------|
| ①会費の設定 | ②教室・イベント | ③広報 | ④クラブ名称 | ⑤事務局体制 |
| ⑥設立準備委員会 | ⑦活動施設 | ⑧助成金の使い方 | ⑨財源の確保 | |
| ⑩他団体との関わり | ⑪その他 | | | |

「会費の設定」「助成金の使い方」「財源確保」といった“カネ”に関わるテーマを選択するクラブが多く不安と期待があるようでした。これまでスポーツ活動には会費を徴収していなかった分、年会費または受講料を徴収することへの理解が得られにくいと感じ、これから住民の理解を得られるよう話をしていくことについてアドバイスを受けていました。



助成金に頼ってはいけないという想いはあるものの、なかなか参加者が集まらず会費・受講料収入が得られないというクラブ。それぞれの項目は一見バラバラの課題ではありますが、話をしていると広報の手法で会員を集められたり、事業展開によってはとても人気のあるものが生まれたり自分たちの課題から新たな運営方法を学ぶことができた時間を過ごしていました。

最後に、榎地方企画班長より、クラブ創りには夢をもって行ってほしいとありました。北信越地区にもたくさんのクラブが設立活動をしているので、色んなクラブに聞いてネットワークを築いてもらえればいいと思います。

(報告：北信越ブロック地方企画班員 白倉 香理)